愛媛大学教育学部紀要　教育科学　第35巻 165～175 1989

幼児の道徳判断に及ぼす結果の良悪と程度差の効果

前　田　健　一
（幼児心理学研究室）
（昭和63年10月11日受理）

道徳判断の発達は，Piaget (1932) の研究以来，数多く研究されている。Piaget (1932) の研究方法は，意図良一損害大の例話と意図悪一損害小の例話を対にして子どもに提示する。例えば，意図良一損害大の例話は次のような例話である。「男児が夕食のためにダイニングルームに入ろうとしてドアを開けた。そのとき，ドアの後ろに置いてあったお盆をひっくり返し，15個のコップを割ってしまった。」意図悪一損害小の例話は，「お母さんが外出中に男児が棚からジャムを取ろうと手を伸ばした。そのとき，コップを１個ひっくり返し，割ってしまった。」である。被験者は，どちらの男児が悪い子で，罰せられるべきかを判断するように求められる。その結果，５歳～６歳児は意図の良悪に関係なく，損害の大きい例話の男児を悪い子だと判断した。それに対して，９歳～10歳児は意図を判断の根拠とし，損害は小さいが悪い意図の男児を悪い子だと判断した。行為の結果に基づく客観的判断から行為者の意図や動機に基づく主観的判断へと発達するというPiaget (1932) の結論は，その後の多くの研究で確認されている（Keasey, 1978 を参照）。それと同時に，意図や動機に基づく判断の程度は，単に年齢や知的レベルに依存するだけでなく（嘉数，1981；前田，1988），例話の提示媒体 (Chandler, Greenspan, & Barenboim, 1973)，例話の提示順序 (Austin, Ruble, & Trabasso, 1977 ; Feldman, Klosson, Parsons, Rholes, & Ruble, 1976)，結果の良悪 (Costanzo, Coie, Grumet, & Farnill, 1973) など様々な要因の影響を受けることが報告されてきた。また，Piaget (1932) の研究方法に対していくつかの問題点も指摘されている (Grueneich, 1982 ; Karniol, 1978)。

Karniol (1978) は，Piaget (1932) が使用した例話対を詳細に検討し，物的損害を引き起こした行為は不注意によるものであり，損害を意図した故意的行為ではないと指摘した。上述の例で説明すれば，一方の男児はダイニングルームに入ることが目的であり，他方の男児はジャムを取ることが目的であった。どちらの男児も不慮の結果を招き，その道徳的責任を問われているのであるが，決して最初から損害を意図した故意的行為によるものではなかった。Karniol (1978) は，故意的行為によってその結果の責任を問われるような意図情報の明確な例話対を使用しないと，子どもがどの程度意図情報を使用したかについて結論できないと主張した。いくつかの研究は，この主張を裏付ける結果を見いだしている (Armsby, 1971 ; Berg-Cross, 1975 ; Imamoglu, 1975)。Armsby (1971) は，小学１年生，３年生，５年生を対象にして，Aグループには Piaget (1932) の標準的例話対を与え，Bグループには故意的行為の例話と偶発的行為の例話を対比させた例話対を与えた。その結果，Aグループでは意図に基づく判断者の比率が小学１年生で28%，３年生で53%，５年生で83%となり，主観的判断者率が発達的に有意に増加した。それに対して，Bグループでは小学１年生で75%，３年生で95%，５年生で95%となり，主観的判断者率に発達的変化は認められなかった。Armsby (1971) の結果は，意図悪の故意的行為一損害小と意図良の偶発

的行為―損害大を比較させたときに，小学１年生でも大多数の者が意図情報を使用できることを示した。もし，例話対の両方を故意的行為に統一すれば，意図の良悪間の区別がより明確になり，もっと年少の幼児でも意図情報を使用する可能性が示唆される。そこで本研究では，幼児を対象にして意図情報の明確な例話対（故意型）と意図情報の不明確な例話対（偶発型）を比較した。故意型は偶発型よりも意図に基づく主観的判断が多くなると予想される。本研究の第１目的は，この予想を検証することである。

ところで，前述の Armsby (1971) は，故意的行為と偶発的行為の比較だけでなく，偶発的行為による損害の重大さを４レベルに変化させている。１つの具体的例話で説明すれば，例話対の一方を故意にカップ１個を割る例話に固定し，他方の例話を偶発的にカップ１個を割る例話（レベル1)，偶発的にカップ15個を割る例話(レベル２)，偶発的にお母さんの新しい皿全部を割る例話（レベル３)，新しいテレビを壊す例話（レベル４）のいずれかと対にして提示した。その結果，小学１年生の意図性判断率はレベル１で90%，レベル２で75%，レベル３で70%，レベル４では60%に減少した。この結果は，意図に基づく主観的判断が結果の重大さに影響され，重大な結果の場合には結果を無視できないことを示している。この傾向は，小学３年生や５年生ではあまり認められず，小学１年生で顕著であった。もし，Piaget (1932) の標準的例話対のように，例話対の両方ともが偶発的行為であるならば，そして客観的判断をしやすい幼児を対象にすれば，結果の重大さの効果はもっと強く認められるであろう。そこで本研究では，意図的行為と偶発的行為の両方について，例話対間で結果の重大さの程度差を設けた。Armsby (1971) の結果を参考にすると，結果の程度差の効果は，故意型よりも偶発型の例話対で強く，また年長児よりも年少児で強く認められると予想される。本研究の第２目的は，これらの予想を検証することである。

本研究の第３の目的は，結果の良悪の効果を検討することである。従来の道徳判断課題では，行為の結果として損害を与える例話対が多く使用されている。したがって,「例話対の主人公のどちらが悪い子」かを判断させている。しかし,「悪い」側面の判断だけでなく,「良い」側面で判断することも，道徳判断にとって重要であると思われる。というのは，何が「悪い」かを知ることは，それ以外の何が「良い」かを知ることと同一ではないからである。また，日常生活では，子どもに禁止すべき「悪い」ことよりも，やるべき「良い」ことの方が多様で多種類であるように思われる。道徳判断の研究で，良い結果を扱ったものがいくつか報告されている (Costanzo, Coie, Grumet, & Farnill, 1973 ; Feldman, Klosson, Parsons, Pholes, & Ruble, 1976 ; Imamoglu, 1975)。しかし，これらの研究は，単一の例話を提示し良悪の程度を評定させる方法を使用しており，例話対を提示して結果の良悪の効果を検討した研究ではない。１つの例話では意図と結果間の相対的評価をすればよいが,例話対では各例話内で意図と結果を比較するだけでなく，例話間で意図同士または結果同士を比較するという複雑な判断過程を要求する。したがって，単一例話の結果をそのまま例話対の説明に適用できないかもしれない。そこで本研究では，伝統的な例話対のパラダイムを使用し，結果の良い利益型と悪い損害型の効果を比較検討した。従来の損害型の場合，幼児は結果に依存した客観的判断をしやすいとされている。結果が良い利益型ではその傾向がより強く見られるのではないかと考えられる。また，この傾向は意図の明確な故意的行為よりも意図の不明確な偶発的行為で顕著になると予想される。

方　　法

被 験 者　被験者は松山市内の公立幼稚園の年少児36名（男児18名，女児18名）と年長児36名（男児18名，女児18名）の計72名であった。彼らの平均年齢と年齢範囲は，年少児が5歳1か月（4歳8か月～5歳7か月)で，年長児が6歳2か月（5歳8か月～6歳7か月）であった。

実験計画　2×2×2×2×2の要因計画を用いた。第1の要因は年齢であり，年少児か年長児かであった。第2の要因は性別であり，男児または女児であった。第3の要因は結果の良悪であり，損害型か利益型かであった。第4の要因は結果の程度差であり，差が大の場合と小の場合であった。第5の要因は例話型であり，故意型か偶発型かであった。最初の2要因は被験者間要因であり，後の3要因は被験者内要因であった。

材　　料　全部で24の例話対を使用した。これら24対は，6対ずつ以下の4つのタイプに分類される。タイプ1は，利益型―結果の程度差大の例話対である。具体的には意図良―利益小の例話と意図悪―利益大の例話を対にしたものである。タイプ2は，利益型―結果の程度差小の例話対である。具体的には意図良―利益小の例話と意図悪―利益中の例話を対にしたものである。タイプ3は，損害型―結果の程度差大の例話対である。具体的には意図良―損害大の例話と意図悪―損害小の例話を対にしたものである。タイプ4は，損害型―結果の程度差小の例話対である。具体的には意図良―損害中の例話と意図悪―損害小の例話を対にしたものである。使用した各例話対は，付録1～4に示している。付録1～4から分かるように，利益の大小は利益の程度を数量的に表現して，タイプ1とタイプ2間で相対的に異なるように操作した。つまり，一方の例話の利益を小に固定し，他方の例話の利益を大(タイプ1)または中(タイプ2)にした。したがって，利益の程度差はタイプ1の方がタイプ2よりも相対的に大きいと考えた。同様の考え方で，損害の大小についても，タイプ3とタイプ4間で相対的に操作した。

また，各タイプ内の6対は，行為者が結果を予期して作為的に行為する故意型3対と作意はないが結果的に利益または損害を与えた偶発型3対から成っていた。なお，例話の内容理解を促進するために，各例話対について意図に関する部分と結果に関する部分をそれぞれ白黒の線画に描いた図版を作成し，紙芝居風に提示した。付録1～4の各例話対において，①が意図部分で，②が結果部分である。なお，付録1～4のAリスト～Dリストは，1日当り6対ずつ提示した6例話対内の提示順序を示している。各リストとも6例話対の中で3対は意図良の例話を1番目に，意図悪の例話を2番目に提示した。残り3対は，その逆の順序で提示された。また，各リスト中には，4つのタイプの例話対が少なくとも1回は含まれるようにした。Aリスト～Dリストのどれを何日目に提示するかは，予め4通りの順序を作成し，各グループ内でほぼ均等に割り当てた。なお，例話中の行為者と被験者の性別は，すべて一致させた。

手 続 き　全ての幼児に対して個別的に実施した。例話対が24と多いので，1日当り6対ずつ連続4日間にわたって分割して実施した。各幼児は，各例話対に対して道徳的判断とその理由を回答した。利益型のタイプ1と2の例話対では，以下の教示を与えた。「これから，お話を2つずつ読んで聞かせます。どちらのお話にも，〇〇ちゃん（被験者名）と同じ位の歳のお友達が出てきます。お話をよく聞いて下さい。後で，1番目のお話にでてきたお友達と2番目のお話にでてきたお友達を比べて，どちらのお友達が良い子かを教えて下さい。」損害型のタイプ3と4の例話対では，この教示内容の下線の部分を「悪い子」に替えた教示を与えた。

それぞれの教示に続いて，実験者は所定の図版を提示しながら各例話対を読み聞かせた。タイプ1と2の例話対の場合には，その直後に「△△ちゃん（第1例話の行為者名）と□□ちゃん（第2例話の行為者名）とでは，どちらが良い子だと思いますか。」と質問した。タイプ3と4の例話対の場合には，同様に2人の行為者名を挙げ，「どちらが悪い子だと思いますか。」と質問した。各例話対の判断回答が得られた後，「それは，どうしてですか。」と質問し，判断の理由を求めた。

結　　果

各例話対で主観的判断をした場合に1点を，その判断理由として意図や動機について言及した場合に1点を与えた。判断得点と理由得点間でPearsonの相関係数を算出したところ，年少児の男児で $r=.87$, $df=16$, $p<.01$, 女児で $r=.87$, $df=16$, $p<.01$, 男女全体で $r=.87$, $df=34$, $p<.01$, 年長児の男児で $r=.88$, $df=16$, $p<.01$, 女児で $r=.76$, $df=16$, $p<.01$, 男女全体で $r=.82$, $df=34$, $p<.01$ となり，いずれも高い正の相関を示した。これは，判断得点と理由得点が極めて類似していることを示している。そこで，以下では判断得点と判断＋理由得点の分析結果について報告する。

(1) 判断得点　表1は，各グループの判断得点（3点満点）の平均値と標準偏差（SD）を示したものである。なお，性別に関する主効果も交互作用も有意でなかったので，表1では男女を一括した全体の数値を示している。判断得点について，2×2×2×2×2の分散分析を行った。その結果，主効果としては年齢が $F(1, 68)=16.46$, $p<.001$ で，結果の良悪が $F(1, 68)=12.00$, $p<.001$ で，結果の程度差が $F(1, 68)=4.55$, $p<.05$ で，例話型が $F(1, 68)=5.26$, $p<.05$ でそれぞれ有意であった。つまり，年長児 ($M=2.29$)＞年少児 ($M=1.61$), 損害型 ($M=2.10$)＞利益型 ($M=1.81$), 程度差小の対 ($M=2.01$)＞程度差大の対 ($M=1.90$), 故意型 ($M=2.01$)＞偶発型($M=1.89$) であった。交互作用としては，結果の良悪×例話型が $F(1.68)=25.16$, $p<.001$ で，年齢×結果の程度差×例話型が $F(1,68)=4.43$, $p<.05$ で有意であった。結果の良悪×例話型の交互作用についてDuncanのmultiple range testによる多重比較を行った結果，偶発型では損害型 ($M=2.18$)＞利益型 ($M=1.60$) である ($p<.01$) が，故意型では損害型 ($M=2.01$)＝利益型 ($M=2.01$) であった。また，

表1　各グループの平均判断得点（　）内はSD

年　　齢	結果の良悪	結果の程度差大		結果の程度差小	
		故意型	偶発型	故意型	偶発型
年少児	利益型	1.64(1.03)	1.08(1.01)	1.81(0.97)	1.53(0.90)
	損害型	1.69(1.05)	1.69(1.05)	1.53(0.90)	1.94(1.10)
年長児	利益型	2.25(0.98)	1.92(1.01)	2.36(0.89)	1.86(0.98)
	損害型	2.39(0.76)	2.50(0.96)	2.44(0.72)	2.58(0.83)

表2　年齢×結果の程度差×例話型の交互作用に関する各平均値

年　　齢	結果の程度差大		結果の程度差小	
	故意型	偶発型	故意型	偶発型
年少児	1.67	1.39	1.67	1.74
年長児	2.32	2.21	2.40	2.22

損害型では偶発型＞故意型である (p<.05) のに対して，利益型では逆に偶発型＜故意型であった (p<.01)。表 2 は，年齢×結果の程度差×例話型の交互作用に関する各グループの平均値を示したものである。表 2 について同様の多重比較をしたところ，有意な交互作用は，年少児の偶発型で程度差小の対 (M＝1.74)＞程度差大の対 (M＝1.39) である (p<.05) ことに起因していた。つまり，年齢差は結果の程度差や例話型に関係なく，すべて年長児＞年中児 (p<.05) であったが，例話型は年齢や結果の程度差に関係なく差がなかった。また，程度差も年少児の偶発型以外はすべて有意でなかった。

(2) 判断＋理由得点　表 3 は，各グループの判断＋理由得点（6 点満点）の平均値とＳＤを示したものである。表 3 についても，性別に関する主効果と交互作用がすべて有意でなかったので，男女を一括した全体の数値を示している。2×2×2×2×2 の分散分析を行った結果，主効果としては年齢が F (1, 68)＝20.21, p<.001 で，結果の良悪が F (1, 68)＝8.97, p<.01 で，結果の程度差が F (1, 68)＝5.89, p<.02 で，例話型が F (1, 68)＝7.31, p<.01 でそれぞれ有意であった。つまり，年長児 (M＝4.09)＞年少児 (M＝2.58)，損害型 (M＝3.56)＞利益型 (M＝3.11)，程度差小の対 (M＝3.44)＞程度差大の対 (M＝3.22)，故意型 (M＝3.48)＞偶発型 (M＝3.19) であった。交互作用としては，結果の良悪×例話型が F(1, 68)＝38.00, p<.001 で有意であった。しかし，判断得点で有意となった年齢×結果の程度差×例話型の交互作用は有意でなかった (F＝1.41, NS)。結果の良悪×例話型について同様の多重比較を行った結果，判断得点の結果と一致していた。つまり，偶発型では損害型 (M＝3.71)＞利益型 (M＝2.67) である (p<.01) が，故意型では損害型 (M＝3.40)≒利益型 (M＝3.56) であった。また，損害型では偶発型＞故意型である (p<.05) のに対して，利益型では逆に偶発型＜故意型であった (p<.01)。

表 3　各グループの判断＋理由得点の平均値（　）内は SD

年齢	結果の良悪	結果の程度差大		結果の程度差小	
		故意型	偶発型	故意型	偶発型
年少児	利益型	2.67(1.89)	1.78(1.80)	3.03(1.99)	2.28(1.52)
	損害型	2.58(1.72)	2.72(2.05)	2.53(1.52)	3.03(1.94)
年長児	利益型	4.14(1.87)	3.28(1.98)	4.39(1.89)	3.33(1.93)
	損害型	4.14(1.60)	4.47(1.89)	4.36(1.42)	4.61(1.72)

考　　察

まず目的 1 について考察する。判断得点でも判断＋理由得点でも，例話型の主効果が有意となり，故意型では偶発型よりも行為者の意図や動機に基づく主観的判断が多かった。これは，目的 1 の予想と一致している。しかし，表 1 の数値を見る限り，両例話型間の差異はそれほど大きくないように思われる。表 1 に基づいて主観的判断率を算出すると，年長児の故意型で78.7%，年長児の偶発型で73.8%，年少児の故意型で55.7%，年少児の偶発型で52.2%であった。年長児と年少児の年齢差に比べると，両例話型間の差異は両年齢児とも比較的小さい。この結果から推論すると，本研究の偶発型は，意図良の行為（利益型）または意図悪の行為（損害型）をそれぞれ「良い」，「悪い」と適切に判断しやすい例話対であったと考えられる。Piaget (1932) の標準的例話対に比べると，本研究の偶発型は，行為者の意図情報や禁止されている行為であるといった

状況情報を明確に提供している(例えば，タイプ3の例話対の例を参照)。それに対して，Piaget（1932）の標準的例話対では，意図悪の行為が実際に規則違反を犯しているとか，禁止されている行為であると明確に述べていない(Karniol, 1978)。結果を目的的に意図した故意的行為でなくても，意図情報や行為の良悪を推論させる状況情報が豊富であれば，幼児でも結果に基づく客観的判断をしなくなるのではないだろうか。少なくとも本研究の年長児は，これらの意図情報や状況情報を利用した可能性が強いと考えられる。

次に目的2について考察する。結果の程度差の効果は，年少児の偶発型でのみ認められた。意図の明確な故意型では年少児でも結果の程度差に影響されなかった。問題のところで一例を挙げたPiaget (1932)の標準的例話対は，偶発型であるだけでなく，結果の程度差も極めて大きい。一方の例話ではコップ1個を割るのに対して，他方の例話ではコップ15個も割っている。本研究の程度差大は，1個と9ないし10個間の比較であった。つまり，本研究の程度差大はPiaget (1932)の標準的例話対よりも程度差が小さかった。それにもかかわらず，年少児は程度差小の例話対に比べると，程度差大の例話対で多くの客観的判断を示した。このことから，Piaget (1932)の標準的例話対では結果の程度差が大きすぎるために，客観的判断を過大に引き起こしたのではないかと推論される。例話対を使用した従来の道徳判断課題では，一般に意図の次元と結果の次元を変化させて，意図と結果を葛藤させている。この場合，意図次元の値は良悪といった質的相違であるのに対して，結果の次元は損害の大小といった量的相違である。従来の研究では，この両次元の値がどの程度であれば，均衡した適度な葛藤を与えるのかについて予め検討していない。しかし，本研究の年少児の結果は，両次元の値の変化によっては意図次元が優勢になったり，逆に結果次元が優勢になる可能性を示唆している。意図の明確な故意型では，偶発型よりも意図次元が優勢であったと考えれば，故意型の例話対で結果の良悪や程度差の効果が見られないという事実をうまく説明できる。つまり，偶発型に比べて意図情報が明確であったので，それだけ結果次元の変化に影響される度合が小さかったのであろう。質量の保存課題や弁別課題の研究によると，幼児は事物の2つ以上の側面に注目し，両側面を同時に考慮することができにくいと指摘されている。また，弁別学習で次元間の相対的優位性を操作した場合，幼児は目立ちやすい優位次元に反応することが報告されている(前田，1977)。例話対を使用した道徳判断課題も基本的にはどちらの次元に反応するかを問題にしている点では共通している。本研究の結果から，今後道徳判断の研究では，例話対を作成する場合に意図次元と結果次元の相対的目立ちやすさを予め調べるなり，結果を論じる際に相対的優位性を考慮すべきであると指摘できる。

最後に目的3について考察する。幼児は，損害型よりも利益型で結果に基づく客観的判断を多く示した。しかし，それは偶発型の例話対の場合に限られていた。故意型では，このような傾向は認められなかった。すなわち，意図が明確な故意型では，結果の良悪に左右されずに意図情報を同程度に使用していたが，意図が不明確な偶発型では，意図良—利益小の例話よりも意図悪—利益大の例話の主人公を「良い子」であると判断していた。これは，「意図が悪い」ことよりも「利益が大きい」ことの方を重視したことを示している。この結果から，幼児は結果が良ければ，たとえ意図が悪くても良い行動だと考えてしまう傾向が強いといえる。このことは，「悪い」と「良い」の言語概念の獲得年齢に発達的なずれがあるとするRhine, Hill, and Wandruff (1967)の研究結果と対応している。Rhine, Hill, and Wandruff (1967)は，良い活動または悪い活動に従事している幼児の絵を，3つの中性的な活動の絵と一緒に提示し，4つの絵の中から良い活動の絵または悪い活動の絵を選択させた。その結果，悪い活動の正選択率は30～35か月児ですでにチャ

ンスレベル以上に達し，その後加齢につれて増加し，66～71か月児ではほぼ100%に達した。それに対して，良い活動の場合には，48～53か月児でようやくチャンスレベル以上に達し，66～71か月児でもほぼ75%であった。この結果に基づいて，彼らは「悪い」という言葉概念はほぼ2歳頃から認識され始めるが，「良い」という概念はそれより遅く獲得され，3～4歳頃になって理解され始めると結論した。Karniol (1978) もまた，同じ行為であっても否定的結果が肯定的結果よりも早い年齢段階で判断される可能性を示唆している。本研究の偶発型の結果は，これらの結論や示唆を確証するものであった。少し一般化して言えば，幼児に何が「悪い」ことかを教えたり指導しても，それは何が「良い」ことかを知ることと必ずしも表裏関係にないし，「良い」行動の獲得に転移するとは限らないといえよう。

引用文献

Armsby, R. E. 1971 A reexamination of the development of moral judgments in children. Child Development, 42, 1241-1248.

Austin, V. D., Ruble, D. N., & Trabasso, T. 1977 Recall and order effects as factors in children's moral judgments. Child Development, 48, 470-474.

Berg-Cross, L. G. 1975 Intentionality, degree of damage, and moral judgments. Child Development, 46, 970-974.

Chandler, M. J., Greenspan, S., & Barenboim, C. 1973 Judgments of intentionality in response to videotaped and verbally presented moral dilemmas: The medium is the message. Child Development, 44, 315-320.

Costanzo, P. R., Coie, J. D., Grumet, J. F., & Farnill, D. 1973 A reexamination of the effects of intent and consequence on children's moral judgments. Child Development, 44, 154-161.

Feldman, N. S., Klosson, E. C., Parsons, J. E., Rholes, W. S., & Ruble, D. N. 1976 Order of information presentation and children's moral judgments. Child Development, 47, 556-559.

Grueneich, R. 1982 Issues in the developmental study of how children use intention and consequence information to make moral evaluations. Child Development, 53, 29-43.

Imamoglu, E. O. 1975 Children's awareness and usage of intention cues. Child Development, 46, 39-45.

嘉数朝子 1981 児童の道徳判断に関する研究 ―年齢とＩＱの変数について― 琉球大学教育学部紀要，25集，217-221。

Karniol, R. 1978 Children's use of intention cues in evaluating behavior. Psychological Bulletin, 85, 76-85.

Keasey, C. B. 1978 Children's developing awareness and usage of intentionality and motives. In C. B. Keasey (Ed.), Nebraska Symposium on Motivation. Vol. 25. Lincoln: University of Nebraska Press, pp219-260.

前田健一 1977 幼児の弁別移行学習と次元優位性 心理学研究，48，259-265。

前田健一 1988 幼児の仲間関係に関する研究 ―仲間内地位，知能，道徳的判断の関係― 愛媛大学教育実践研究指導センター紀要，第6号，113-122。

Piaget, J. 1932 The moral judgment of the child. London: Routledge and Kegan Paul.

Rhine, R. J., Hill, S. J., & Wandruff, S. E. 1967 Evaluative responses of preschool children. Child Development, 38, 1035-1042.

付記

本研究の資料収集にあたり快くご協力下さいました松山市立石井幼稚園の先生方と園児の皆さんに心からお礼申し上げます。また，資料収集については，渡部祐子さんを中心として露口範子さん，正岡聡子さん，吉雄智津子さん，三浦元子さん，永井清美さんから多大な援助を得ました。ここに記して感謝の意を表します。

付録１　道徳的判断課題で使用した例話対（Ａリスト）

タイプ３―(1)（偶発型）

〔意図良―損害大の例話〕①けんじ君（ゆかりちゃん）は，洗濯をしているお母さんのお手伝いをしてあげようと思いました。洗った洗濯物を入れたカゴを運んでいるとき，つまずいてころんでしまいました。②洗濯物は，10枚全部落ちて汚れてしまいました。

〔意図悪―損害小の例話〕①じろう君（きみこちゃん）は，洗濯物を干しているお母さんのそばで，お母さんがとめるのも聞かず，走り回って遊んでいました。そのうち，②持っていた棒が干してある洗濯物にあたり，１枚下に落ちて汚れてしまいました。

タイプ１―(2)（故意型）

〔意図良―利益小の例話〕①まさる君（さきこちゃん）は，ぶらんこに乗っている小さい子に楽しく遊んでもらおうとして，ぶらんこを揺らしてあげました。それで，②その子は少し喜びました。そして，まさる君（さきこちゃん）にガムを１枚くれました。

〔意図悪―利益大の例話〕①ひちろう君（のりこちゃん）は，ぶらんこに乗っている小さな子を恐がらせてやろうとして，急にぶらんこを押しました。すると，②その子は，大変喜んでガムを10枚ひちろう君（のりこちゃん）にくれました。

タイプ４―(4)（故意型）

〔意図悪―損害小の例話〕①きよし君（かよちゃん）は，友達とけんかしていて，腹がたって友達の靴を水たまりに投げました。②友達の靴は一足だけ水たまりに入って，びしょびしょになってしまいました。

〔意図良―損害中の例話〕①たつひこ君（みほちゃん）は，友達の靴が汚れているので，ぞうきんで拭いてあげようと思いました。すると，②ぞうきんは濡れていたので，友達の靴は２足ともびしょびしょになってしまいました。

タイプ２―(5)（偶発型）

〔意図悪―利益中の例話〕①いちろう君（みすずちゃん）が遊んでいると，友達の紙飛行機が飛んで来ました。意地悪をしてやろうと思って遠くへ飛ばそうとしました。すると，②飛ばした紙飛行機は，ちょうど友達が受け取ることができました。それで，友達はお礼にいちろう君（みすずちゃん）の大好きな花が２本咲いている所へ連れて行ってくれました。

〔意図良―利益小の例話〕①けんた君（かずこちゃん）が遊んでいると，友達の紙飛行機が飛んで来ました。渡してあげようと思って，飛ばしました。すると，②紙飛行機は林の中へ飛んで行きました。紙飛行機を追いかけて行くと，きれいな花を１本見つけることができ，嬉しくなりました。

タイプ４―(3)（偶発型）

〔意図良―損害中の例話〕①しげる君（よしえちゃん）は，お母さんのお手伝いをして，お盆にお皿を２枚載せて運んでいました。②部屋のドアを開けようとしたときに手がすべってお盆を落し，お皿は２枚とも割れてしまいました。

〔意図悪―損害小の例話〕①かつお君（かずみちゃん）は，お母さんの留守中に内緒で戸棚の中にあるお菓子を食べようとしました。でも，お菓子は高い所にあって手が届きません。②無理に取ろうとしたら，お菓子のお皿が落ちて１枚割れてしまいました。

タイプ２―(6)（故意型）

〔意図悪―利益中の例話〕①シーソーに１人で乗っている女の子がいました。まさや君（まゆみちゃん）は，おどかしてやろうと思って，シーソーにどんと乗りました。すると，②女の子はとっても喜んで，まさや君（まゆみちゃん）の大好きなアメを２個くれました。

〔意図良―利益小の例話〕①シーソーに１人で乗っている女の子がいました。ようじ君（ようこちゃん）は，楽しませてあげようと思ってシーソーに乗って遊んであげました。すると，②女の子は喜んで，ようじ君（ようこちゃん）の好きなアメを１個くれました。

付録２　道徳的判断課題で使用した例話対（Ｂリスト）

タイプ１―(4)（故意型）

〔意図悪―利益大の例話〕①ゆう君（みこちゃん）におじさんが道を尋ねました。ゆう君（みこちゃん）は，よく道を知っていましたが，困らせてやろうと思ってわざと間違った道を教えました。しかし，②おじさんは，あまり迷わずに探している家を見つけることができました。それで，お礼に大切にしていたのに壊れてしまったおもちゃを９個も直してくれました。

〔意図良―利益小の例話〕①さぶろう君（かなちゃん）におじさんが道を尋ねました。さぶろう君（かなちゃん）は，一生懸命におじさんに教えてあげました。②おじさんは迷わずに探している家を見つけることができました。それで，お礼に大切にしていたのに壊れてしまったおもちゃを１個直してくれました。

タイプ４―(5)（偶発型）

〔意図悪―損害小の例話〕①みつひこ君（えつこちゃん）は，「さわってはいけない」と言われていたのに，お母さんの留守に卵を転がして遊んでいました。すると，②卵が机から落ちて１個割れてしまいました。

〔意図良―損害中の例話〕①たいすけ君（さちこちゃん）は，病気のお母さんのお手伝いをしようと思ってお店へ買物に行きました。手に卵２個を持って歩いているときに，つまずいてしまいました。そしたら卵は２個とも落ちて割れてしまいました。

タイプ２―(1)（偶発型）

〔意図良―利益小の例話〕①まさる君（きよこちゃん）は，木にカラスが来て木の実を食べようとしていたので，追い払おうと思いました。そして，木を揺らしました。すると，②木にひっかかっていたボールも取れました。そのボールで小さな子は楽しく遊ぶことができました。それで，その子は喜んでシールを１枚くれました。

〔意図悪―利益中の例話〕①ともき君（ともみちゃん）は，木の枝を折ってやろうと思って，木の枝を揺らしました。すると，②木にひっかかっていたボールが落ちてきました。そのボールで小さな子は楽しく遊ぶことができました。それで，その子はとても喜んでシールを２枚くれました。

タイプ３―(2)（故意型）

〔意図良―損害大の例話〕①たろう君（さとみちゃん）が公園の花壇の前を通りかかると，花壇にたくさんの草が生えているのに気がつきました。それで，②草むしりをしていると，間違えて植えている花を９本も抜いてしまいました。

〔意図悪―損害小の例話〕①まさお君（みかちゃん）が公園の花壇の前を通りかかると，きれいな花がたくさん咲いていました。まさお君（みかちゃん）は，どうしても欲しくなりました。それで，②「取ってはいけない」と言われていたのに，１本取って帰りました。

タイプ４―(6)（故意型）

〔意図悪―損害小の例話〕①かず君（まりちゃん）は，お母さんを困らせてやろうと思って，お母さんの部屋に入りました。そして，②お母さんが大切にしていた絵はがきを１枚捨ててしまいました。

〔意図良―損害中の例話〕①みずや君（はつえちゃん）は，お母さんの部屋が汚れていたので，お掃除をしてあげようと思いました。それで，②お母さんが大切にしていた絵はがき３枚を，間違えて他のゴミと一緒に捨ててしまいました。

タイプ３―(3)（偶発型）

〔意図良―損害大の例話〕①あきお君（よしこちゃん）は，お母さんのお手伝いをしてお盆にコップ９個をのせて，部屋に運んでいきました。②部屋のドアを開けようとしたとき，手がすべってお盆を落し，コップは９個ともみんな割れてしまいました。

〔意図悪―損害小の例話〕①まさき君（めぐみちゃん）は，お母さんの留守に内緒で戸棚の中のお菓子を食べようとしました。でも，お菓子は高い所にあって手が届きません。②無理に取ろうとしたら，そばのコップに触ってコップが１つ落ちて割れてしまいました。

付録3　道徳的判断課題で使用した例話対（Cリスト）

タイプ2—(2)（故意型）

〔意図悪—利益中の例話〕①もとや君（りかちゃん）は，三輪車に乗っている小さな子を驚かしてやろうと思って，急に三輪車を押しました。すると，②その子は，大変喜んでガムを2枚くれました。

〔意図良—利益小の例話〕①まさや君（さよちゃん）は，三輪車に乗っている小さな子に楽しく遊んでもらおうと思って，三輪車を押してあげました。それで，②その子は，少し喜んでガムを1枚くれました。

タイプ1—(5)（偶発型）

〔意図良—利益小の例話〕①さとる君（きみちゃん）が遊んでいると，友達のボールが転がってきました。渡してあげようとボールを投げました。すると，②ボールは林の中に転がって行ってしまいました。ボールを探しにいったら，ビー玉を1個見つけることができたので，嬉しくなりました。

〔意図悪—利益大の例話〕①もとお君（さちこちゃん）が遊んでいると，友達のボールが転がってきました。もとお君（さちこちゃん）はもっと遠くへ投げて困らせてやろうと思いました。でも，②投げたボールは，ちょうどお友達の所へ飛んでいき，お友達が受け取ることができました。それで，お友達はとても喜んで，ビー玉を10個くれました。もとお君（さちこちゃん）は大変嬉しくなりました。

タイプ3—(4)（故意型）

〔意図悪—損害小の例話〕①なつお君（ふみこちゃん）は，友達とけんかして，友達の本をぐしゃぐしゃにしてやろうと思いました。そして，友達の本を水溜りに投げました。それで，②友達の本の1冊は，水溜りに入ってびしょびしょになってしまいました。

〔意図良—損害大の例話〕①はるお君（さゆりちゃん）は，みんなの本が汚れているので，そうきんで拭いてあげて，きれいにしようと思いました。すると，②ぞうきんが濡れていたので，10冊の本はみんなびしょびしょになってしまいました。

タイプ2—(3)（偶発型）

〔意図良—利益小の例話〕①急にお客様が来たので，ジュースを買いに行く暇がありません。さちお君（ひとみちゃん）は，妹にあげようと思って自分のジュースを飲まずに残していました。②それをお母さんが見つけて，お客様に出しました。お母さんは代わりにさちお君（ひとみちゃん）の好きなホットケーキを1つ焼いてくれました。

〔意図悪—利益中の例話〕①急にお客様が来たので，ジュースを買いに行く暇がありません。たかまさ君（たかこちゃん）は，自分のジュースをもっていましたが，好きでないので，飲まずに残していました。②それをお母さんが見つけて，お客様に出しました。お母さんは代わりにたかまさ君（たかこちゃん）の好きなホットケーキを2つも焼いてくれました。

タイプ4—(1)（偶発型）

〔意図良—損害中の例話〕①たかお君（まさこちゃん）は，アイロンをかけているお母さんのお手伝いをしてあげようと思いました。アイロンをかけた洗濯物を運んでいるとき，つまずいて転んでしまいました。それで，②アイロンをかけた洗濯物が3枚落ちて，くしゃくしゃになってしまいました。

〔意図悪—損害小の例話〕①ゆたか君（やすこちゃん）は，アイロンをかけているお母さんのそばで，お母さんが止めるのも聞かずに走り回っていました。そのうち，②持っていた棒がアイロンをかけて置いてあった洗濯物に当り，1枚くしゃくしゃになってしまいました。

タイプ1—(6)（故意型）

〔意図悪—利益大の例話〕①シーソーに1人で乗っている男の子がいました。おさむ君（まさよちゃん）は，おどかしてやろうと思ってシーソーにどんとのりました。すると，②男の子はとても喜んで，おさむ君（まさよちゃん）の好きなチョコレートを10個くれました。

〔意図良—利益小の例話〕①シーソーに1人で乗っている男の子がいました。まさと君（さとみちゃん）は，楽しませてあげようと思って，シーソーに乗って遊んであげました。すると，②その男の子は喜んで，まさと君（さとみちゃん）の好きなチョコレートを1個くれました。

付録4　道徳的判断課題で使用した例話対（Dリスト）

タイプ1―(3)（偶発型）

〔意図良―利益小の例話〕①急にお客様が来たので，お菓子を買いに行く暇がありません。かずや君（ひとみちゃん）は，自分のおやつを妹にあげようと思って残していたものがありました。②それをお母さんが見つけて，お客様に出しました。それで，お母さんは代わりに，かずや君（ひとみちゃん）の好きなクッキーを1個焼いてくれました。

〔意図悪―利益大の例話〕①急にお客様が来たので，お菓子を買いに行く暇がありません。たつや君（けいこちゃん）は，自分のおやつをもっていましたが，好きでないので，食べずに残していました。②それをお母さんが見つけて，お客様に出しました。それで，お母さんは代わりに，たつや君（けいこちゃん）の好きなクッキーを9個焼いてくれました。

タイプ2―(4)（故意型）

〔意図悪―利益中の例話〕①まもる君（あいこちゃん）におじさんが道を尋ねました。まもる君（あいこちゃん）は，よく道を知っていましたが，困らせてやろうと思ってわざと間違った道を教えました。しかし②おじさんは，あまり迷わずに探している家を見つけることができました。それで，お礼にまさる君（あいこちゃん）の大好きな本を2冊読んでくれました。

〔意図良―利益小の例話〕①さんた君（えりちゃん）におじさんが道を尋ねました。さんた君（えりちゃん）は，一生懸命におじさんに教えてあげました。②おじさんは迷わずに探している家を見つけることができました。それで，お礼にさんた君（えりちゃん）の好きな本を1冊読んでくれました。

タイプ4―(2)（故意型）

〔意図良―損害中の例話〕①つとむ君（きみえちゃん）が幼稚園の花壇の前を通りかかると，花壇にたくさんの草が生えているのに気がつきました。それで，②草むしりをしていると，間違えて植えている花を2本抜いてしまいました。

〔意図悪―損害小の例話〕①ふみお君（まみちゃん）が幼稚園の花壇の前を通りかかると，きれいな花がたくさん咲いていました。ふみお君（まみちゃん）は，どうしても欲しくなりました。それで，②「取ってはいけない」と言われていたのに，1本取って帰りました。

タイプ3―(6)（故意型）

〔意図良―損害大の例話〕①たもつ君（くみこちゃん）は，お父さんの部屋が汚れていたのでお掃除をしてあげようと思いました。すると，②お父さんが大切にしていた絵を10枚，間違えて他のゴミと一緒に捨ててしまいました。

〔意図悪―損害小の例話〕①のぶひこ君（かずよちゃん）は，お父さんを困らせてやろうと思ってお父さんの部屋に入りました。そして，②お父さんが大切にしていた絵を1枚捨ててしまいました。

タイプ1―(1)（偶発型）

〔意図悪―利益大の例話〕①たつろう君（たまみちゃん）は，木の枝を折ってやろうと思って木に登って枝を揺らしていました。すると，②木にひっかかっていたボールが落ちてきました。そのボールで小さな子は楽しく遊ぶことができました。それで，その子はとても喜んでシールを10枚くれました。

〔意図良―利益小の例話〕①きよふみ君（みちよちゃん）は，木に悪い虫がいたので，取ってあげようと思いました。そして，木を揺らしました。すると，②木にひっかかっていたボールも取れました。そのボールで小さな子は楽しく遊ぶことができました。それで，その子は喜んでシールを1枚くれました。

タイプ3―(5)（偶発型）

〔意図悪―損害小の例話〕①ゆうき君（ゆみちゃん）は，触ってはいけないと言われていたのに卵で遊んでいました。すると，②卵が机から落ちて卵が1個割れてしまいました。

〔意図良―損害大の例話〕①かずき君（さよちゃん）は，病気のお母さんのお手伝いをしようと思ってスーパーに買物に行きました。②カゴに卵を入れて歩いていると，つまずいて卵が落ち，10個とも割れてしまいました。